



# 神は細部に宿る

金融広報中央委員会

会長 小林信介

新年明けましておめでとうございませう。本年も宜しくお願いいたします。

金融広報中央委員会会長に就任して、丁度、半年が経ちました。会長に就任した当初、金融教育のニーズが世界的に高まってきたことについては、承知していましたが、金融教育活動の効果はどう測っていくのか等に関しては、なかなか難しいところがあるなどの印象を持っていました。

しかし、その後、金融教育活動等の現場に立ち会うことで、頭で考える以上に、金融教育等の実践的な教育が、今の社会にとって重要な役割を担っていると、肌で感じるようになってきました。

それは、夏期に実施された金融教育に関する教員セミナーへの参加がきっかけになりました。ここでは多くの先生方が生徒達の夏休み期間を利用し、自腹を切って参加され、金融教育の実践事例のノ

ウハウ取得に極めて熱心に取り組む姿がみられました。

先輩講師の先生方から、教育現場の実態について、「今の生徒達は、少子高齢化の進展や携帯電話の普及といった社会環境の変化の中で、学校教育が本来目指している方向、例えば自ら物事を決めようとする姿勢や、真に必要なコミュニケーション能力が、明らかに後退しつつある」。「いわゆる縦割りのな教科のみでは、こうした問題への対処は難しい」。この点、「総合的な時間」等における実践的な教育の実施は、問題解決に向けて、明らかな効果が認められる」といった報告がなされてきました。

このセミナーに参加された先生方は、正に教育現場において同様な悩みを抱え、その解決の手立てを見出すべく、参加されたのであらうと思います。

こうした状況を目の当たりにし、「答えは現場にある」ことに気付かされ、同時に「神は細部に宿る」という言葉が改めて思い起

こされることとなりました。

そもそもこの言葉に出会ったのは、以前、民間金融機関で監査役をやっていた時のことで、何かの書籍で目にし、言葉の本当の意味を確かめることなく、語感から、この言葉は、正に監査役の仕事の真髄を突いた言葉ではないかと感じていました。すなわち、あの当時、支店を監査して、末端で何が起きているのかを知ることが出来るのは、経営陣の中では、監査役しかない。監査役が、勝負できるのは、正に現場であると強く感じていたからです。

この語源について、元々はドイツの建築家の言葉で、主として美術評論等で使われるケースが多いようですが、「現場に真実はある」といった意味にも使われ、上記の理解で当たらずとも遠からずではないかと思えます。

いずれにしましても、新しい職場で、図らずもこの言葉の持つ重みを、再認識させられる形になりました。

今後、現在の仕事をより深く

知れば知るほど、この言葉の持つ意味合いが、益々重みを増して行くに違いありません。教育現場で苦勞されておられる先生方、各地域で金融学習グループ活動や各種セミナーの講師等で活躍しておられる金融広報アドバイザーの方々等のご意見等に、一層耳を傾ける必要があります。それらを肝に銘じて、与えられた職務に邁進して参る所存です。

金融広報の一環として発行しております、「くらし塾さんゆう塾」が経過、発行部数も毎期8万部に達し、皆様方から暖かい理解と励ましのお言葉を頂戴しています。

今後とも、金融広報中央委員会が目指す金融教育のコアである「生きる力」に焦点を当てつつ、生活の現場、教育の現場等に密着した各種インタビュー、レポート、金融にかかわる基礎情報を、分かり易い言葉で提供し、皆さまのご期待に応えて参りたいと考えております。